

発掘された日本列島'99新発見考古速報●目次

ごあいさつ 文化庁長官 林田英樹 3

発掘された日本列島'99の開催にあたって 発掘された日本列島'99実行委員長 横山浩一 4

考古学年表 6

出品遺跡一覧 8

話題の遺跡と出土遺物

●旧石器時代
約五万年前の着柄痕のある斜軸尖頭器 9
柏台1遺跡 10

旧石器人の行動範囲を具体的に示す遺跡間石器接合資料 12

●縄文時代
一万三千年前の見事な石斧と装着痕のある槍先形尖頭器 13
縄文人の家は入母屋造り 14
環状列石のまえばれ? 三内丸山に環状配石墓 15
聖石遺跡 16
下太田貝塚 18

脚がのび、頭部も。自立する土偶の誕生 20
縄文人の人体表現? 岩偶が貝塚から大量に出土 21
三ノ耕地遺跡 22
縄文の漆、東から西から 24

●弥生時代
平窪諸荷遺跡 25
琵琶湖畔で日本最小の銅鐸が、九州では銅鐸が初めて出土 27
妻木晩田遺跡群 28
上東遺跡 30
扉のある家形高坏、弥生人の家は超モダン? 32
弩? ジョッキ・腰掛.....続々出土 33

大風呂南墳墓群 34

●古墳時代
黒塚古墳 36
樺井大塚山古墳 38
浄水祭祀を表わす埴輪群とミニチュア土製品の造形 40
古墳を守る? 盾持人埴輪 41
西庄遺跡 42
中半入遺跡 44
噴火で完全保存の古墳 46
と金銅装頭椎大刀 48
小湊・フワガネク遺跡 48

●古代
「五十戸税」「板野国守」「椿」.....七世紀後半の木簡が続々出土 47
最古の貨幣「富本銭」、飛鳥の工房跡から四〇枚出土 50
上岩田遺跡 52
北の城柵官衙から、漆紙文書「死亡帳」ほか出土 54
クリ材を柱目取り、ロクロの回転盤 55

●中世
白川金色院跡 56
樺崎寺跡 58
絵巻にみえる巻数板、鎌倉時代の武士の館から初めて出土 60
常滑の大甕二つに約一六万枚の埋蔵銭 61
石見銀山遺跡 62

●近世
高山右近ゆかりのキリシタン墓地 64
和歌を鉄軸書きした織部が京都の町屋から出土 65
萩城跡(外堀地区) 66

発掘された日本列島'99展示遺物

●旧石器縄文時代の最新情報 68
●古代の最新情報 98

●弥生時代の最新情報 79
●中世・近世の最新情報 106

●古墳時代の最新情報 90
執筆者ならびに協力者一覧 119

装幀●多川精一 レイアウト●荒瀬光治・今野かずみ・大沢純子・名古屋央理(あむ)

はパネル展示を示す

埋蔵文化財公開普及事業「発掘された日本列島⁹⁹」(新発見考古速報展)の開催に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

地下に埋もれている文化財を埋蔵文化財といいますが、この埋蔵文化財の所在する場所は現在、全国で約三七万か所が知られています。我が国では現在、年間八千件にも及ぶ埋蔵文化財の発掘調査が、多くの方々との協力のもとに実施され、多数の文化財が掘り出され地域の歴史と文化が日々明らかになっており、時には日本の歴史が書き替えられる新発見もあります。地下に埋もれる土の器、石や木・鉄の道具、金・銀・銅の飾り、木の実・山菜・米、獣や魚の骨、家々や村・町の跡、田畑の跡、砦や城跡、祭の跡や墓などは、私たちの祖先が六〇万年前にも遡る時代から、営々と築き上げてきた歴史と文化を雄弁に物語る貴重な文化遺産であります。

二一世紀が間近にせまった現代に生きる私たちは、悠久の時を経て形作られてきた我が国の歴史を振り返り、一人一人が自らの歴史上の位置を確認しつつ、これからの方向性を見定めながら日本文化を創造することが、今まさに求められています。各地に残る有形・無形の文化財は、その羅針盤となることでしよう。そのために私たちは、国民や地域住民が誇ることのできる身近なものとして文化財を守り、未来へと伝えなければなりません。その意味で埋蔵文化財の保護は私たちに課せられた重要な役割の一つであります。近年、遺跡や出土品について国民の関心は一段と高まり、新聞やテレビなどの報道を通じて、埋蔵文化財は日常生活の中に定着しているといえます。しかし、残念ながら多くの場合、一般の方々が出土品を目にする機会は少ないのが現状です。発掘調査成果は広く国民に公開され、研究や歴史の解明に役立ち、国民に還元されることで十分な成果を上

げたといえると思います。そこで文化庁では、最近、注目を集めた遺跡や話題となった遺跡を中心に出土品を全国から集め、それをわかりやすく展示して各地を巡回し、より多くの方々にご覧いただくとうと、平成七年度からこの事業を開始しました。

五回目を迎える今年度も、東京都江戸東京博物館をかわきりに、秋田県立博物館、長野市立博物館、四日市市立博物館、徳島県立博物館、山口県立萩美術館・浦上記念館、松戸市立博物館の順に、来年二月はじめまで巡回いたします。従来どおり、各地の開催館では、全国を巡回する中核展示品に加えて、各地域の発掘資料を展示することになっております。この機会に、富本銭ふほんせんを始めとした話題の出土品を実際に見ていただき、私たちの祖先の息づかいを感じ取っていただくとともに、日本文化の豊かさや奥の深さとあわせて、埋蔵文化財の保護について理解を一層深めていただくことを心から希望いたします。

本展覧会の開催に当たり、共催していただきました全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会、各開催館、貴重な文化財をご出品いただきました各機関、ご協力いただきました朝日新聞社、ご後援いただきました日本放送協会、ご協賛いただきました株式会社京都科学、株式会社ジャパン通信情報センター、株式会社東都文化財保存研究所、ご賛助いただきましたアジア航測株式会社、株式会社パスコ、株式会社フジテクノ、株式会社文化財保存計画協会、国際航業株式会社など関係各位に心からお礼を申し上げます。

平成十一年六月

文化庁企画の「発掘された日本列島」(新発見考古速報展)は今年度で第五回目を迎えます。

この展覧会はその名称が示すように、全国で盛んに行われている遺跡の発掘調査の成果を、実物資料を通じてできるだけ早く、広く、市民の皆様にお伝えすることを目指したものです。すでに過去四年間に延^{のべ}二八館で開催され、総計三四万人の方々をお迎えしました。

今年度は従来と変って東京都江戸東京博物館から出発します。以後は秋田県立博物館、長野市立博物館、四日市市立博物館、徳島県立博物館、山口県立萩美術館・浦上記念館、松戸市立博物館の順序で巡回します。

毎回申し上げているように、この展覧会は最新の発掘成果に接する機会を全国の皆様に均等に提供するため、年ごとに開催館を入れ替えています。今回の開催館の近くにお住まいの方は、ぜひこの機会に速報展をご覧くださるようお待ちしております。

会場では、ここ一二年の間に新聞やテレビで大きく報道された資料に出会うことができそうです。例えば奈良県黒塚古墳出土の三角縁神獸鏡^{さんかくえんしんじゅうきょう}です。ヒミコが中国から贈られた鏡だという説のあるこの種の鏡が、大和政権発祥の地と目される大和盆地の東南部からはじめて大量に発見されたことは、ヤマタイ国論争に微妙な影響を与えつつあります。

また、従来新しい時代のものと考えられていた「富本銭」^{ほんせん}が「和同開珎」^{わどうかいじん}に先立つ飛鳥時代の官銭であった可能性が高いというニュースも大きく報道されましたが、その「富本銭」の実物に会場で出会うことができそうです。

このように全国的観点から選ばれ、全国を巡回する中核展示に加えて、各開催館ごとにその地域の重要資料も展示されます。東京都ではこれまで中核展示のみが行われてきましたが、今回はじめて、東京都でも地域展示が開かれるようになったことをお知らせしておきましょう。

このような速報展を全国に巡回させるには、表面から見えない種々の苦労が伴います。五年前この速報展がはじまった時、私たちが心配したのは、何年続くだろうか、途中で息切れしないだろうかということでした。幸いに関係諸機関のご尽力によって速報展は順調に続いております。その間、多くの方々から有益なご講評、ご助言をいただき、また実行委員会自身も内容の改善に努めてまいりました。

その結果、この速報展の形式や内容は、いまやかなり成熟したものとなっています。しかし成熟とマンネリズム化は相接してやっております。この速報展が今後も新鮮な活力を保ち続けられるよう、全体のコンセプトについても、基本的な展示方法についても、皆様の忌憚^{きたん}ないご批判、ご指示をお待ちしています。

平成十一年六月